人間性復活

第185号

人間性復活とは、物質偏重の現代文明の中にあって、人間の精神生活を重んじて、その復権を図ることにほかならない。

自国を他国の侵略から守る方法について

一般社団法人　人間性復活運動本部　理事　内田（うちだ）　渉（わたる）

２０２２年2月24日、ロシアが突如ウクライナに軍事侵攻を開始しました。21世紀の現代に起こったこの野蛮な侵略戦争を前にして、誰しも国防について考えざるをえないと思います。

この出来事を受け、私の脳裏に浮かんだのは、お釈迦様が自国の防衛について説かれた言葉でした。お釈迦様在世の古代インドに、バッジ族と言う種族がいて、お釈迦様に「自国が他国から攻められ、亡びない為にはどうすれば良いでしょうか」と問うたところ、その時、お釈迦様は、「七不衰の法」を説かれました。

第一に、よく会合し、話し合うこと。第二に、和合して会合し、決議すること。第三に、前の制度を捨てず、旧来の風習を守ること。第四に、年長者を敬い、その言に耳を傾けること。第五に、婦女や少女を強制して、従わせようとしないこと。第六に、内外の神の社を敬い、供物を捧げること。第七に、宗教家を敬うこと。

これらの事柄を守っている限り、その国は他国から攻め込まれても、滅亡することはないと説かれました。

これは、大きく分けて三つに分かれると思います。第一は、大勢が集まって物事を決め、旧来の伝統を捨てないこと。第二に、高齢者を敬い、その言に耳を傾け、女性や子供を大切にすること。第三に、神の聖域を敬い、神に仕える人を敬うこと。

これを更に多少拡大解釈をし、現代的に表現すれば、人権を無視した独裁政治ではなく、人権を尊重した民主政治を行うこと。個人主義ではなく共済主義に基づく、人間性豊かな福祉社会をつくること。無神論ではなく、神を厚く敬うこと、となります。この様にお釈迦様は、自国の防衛について、常識とは遥に異なる方法を人々に教えられました。

そして、それは古代インドでだけ通用することではなく、現代でも時代を超えて通用する普遍的な真理だと考えます。それでは、現代の日本はどうかと言うと、戦後は新しい憲法の下で民主主義陣営に属し、完璧とは言えないまでも、各種の社会保障制度があり、福祉社会を目指しています。また、神道も仏教も捨て去られることなく、人々に敬われています。しかし、個々の人間を見た時に残念ながら、全ての人が、人間性が豊かであるとは言い難い現状であると思います。そういう意味でも今後、日本で人間性復活運動をより推進していかなければと考えます。

結局、お釈迦様は、自国を神の御心に適う社会とすることこそ、最大の国防であると説かれたのです。

以上

会員の『声』 第11回

地球温暖化に今、考えること

佐賀支所（佐賀県） 白井正人（しらいまさと）

現在、世界では、燃料・食糧・水問題が重大な課題となっています。

日本はもともと農業立地の国であり、食糧生産は私たちの生活にとても大事なものでした。しかし、第二次大戦後、欧米先進国に追い付き追い越せで工業化へと梶をきりました。農業政策及び食糧自給対策等は後回しとなり、また他の途上国も同様でした。結果として、今の地球の現状があります。環境は破壊され、地球温暖化が進んでおります。

一方、欧米先進国は、国家の手厚い保護の下、農業国としても足腰がしっかりとしています。米・英・独・仏等々は、食糧自給率50％～65％を維持しています。その中で、日本人が今後どのように生きるべきか、私なりに考えてみました。

◎問題点

① 地球温暖化による動植物への悪影響
② 地球温暖化による自然発火での森林大火災
③ 台風・モンスーン・ハリケーンの超大型化によるさまざまな被害
④ 北極・南極・ヨーロッパアルプス・チベット・シベリア・アラスカ等における氷河・永久凍土解けによる海面上昇

◎それをストップさせる為に、一人一人ができること

① 移動はできる限り公共の交通手段で
② 電気使用は細かくオン・オフを
③ 食品ロスを限りなくゼロへ
④ 一人一人が過度な食事を控え適量にする（本人の健康のためにも良い）
⑤ 水使用における無駄をより少なく（有限である）

◎ある先人の言葉

・アフガニスタンでの中村哲医師

一人の医師が助けることができる患者は一生で数名。しかし、綺麗な水だと何十万人・何百万人を救うことができる。

最後になりますが、これからの燃料として、原子力はもうしばらく必要だと思います。一日でも早く、核を完全に制御できる技術を構築してほしいと思います。そういった環境の中で、モラルの高い、倫理観をしっかりと持った技術者に平和利用のみの研究をしていただきたいと願うのみです。

地球に生活させていただく私たちが、利他の精神を持って生活させていただくことこそが、後世に美しい地球を、そして大宇宙を残すことにつながるのではないかと思います。

以上

人間性復活運動本部

孫に残してしまう自然環境

福岡支所（福岡県）　近藤文雄（こんどうふみお）

爺さんの心配ごと

半年前のことになりますが、娘の誕生日会を中華料理店で部屋を予約し、兄弟含め12名で行いました。食べ終わったら、言っても利かない5人の小さな孫たちは走り回ります。そんな孫たちを眺めながら、店までの車中で聞いた大型台風11号のニュースを思い出しました。瞬間最大風速70ｍ／ｓ、この数字が頭から離れません。新幹線並のとんでもない数字です。私が今まで生きてきた72年間で聞いたことのない速さです。今、異常気象により、北極海の氷が解けて狩りが出来ず北極グマが大変な事態になっていることや、太平洋のツバルという国が海水面の上昇で水没しそうだとか、イタリアの観光地・ベネチアの町が海水で冠水、オーストラリア・アメリカの燃え続ける山火事と、過去にこんな事はありませんでした。近々では、日本の約2倍の面積がある、パキスタンの国土の⅓が洪水被害。唖然とします。間違いなく大きな温暖化の影響でしょう。

こんな話を聞いたことがあります。40～50年前、ある小さな車のメーカーの社長が東京の空を見上げながら、「我々が作った車のせいで、こんなに空を汚してしまって申し訳ない。未来の世界の子供たちに青空を取り戻したい。」と言って、部下とともに、あるエンジンの開発に取り掛かりました。大気汚染対策です。

折しも、米国では１９７０年に、当時世界で最も厳しい環境基準であるマスキー法（大気浄化法）が成立し、未達成の車は販売が禁止されることになりました。規制が厳しすぎると自動車業界は猛反発します。半ば途方にくれていた世界中の自動車メーカーと研究者を驚嘆させたのは、なんと極東の地域に、名前も知られていない小さな車のメーカーでした。わずか2年足らずで、この厳しい環境基準をクリアしたのです。社長はこれで業績がアップすると考えましたが、部下に咎められます。子ども達に青空を

見せてあげるのではなかったのですか。そこで、社長は自社だけの技術にとどめず、日本はもとより世界の他メーカーにも技術を公開します。本田宗一郎社長の先見的な考えが、名実ともにホンダを「世界のホンダ」へと押し上げたのです。そして今、綺麗な青空を見られるのは、一企業が問題意識を持って努力してくれたお陰です。車はシビックCVCCエンジンです。その当時燃費も、4年間、世界で第1位でした。

一方で、陸での大きな環境変化。日本では花粉症、家の奥さんも季節が来ると困っています。これも山に一斉に杉を植林した事によるものでしょうか。

また、世界中の交流が盛んになっていますので、好むと好まざるに関わらず、外来動植物が人知れず侵入、そして人の交流によりあらゆるウイルスや病気などが伝染。これからも、さまざまな大きな環境変化が、次から次へと私たちに襲いかかってくることでしょう。この小さな孫たちが、自分達の力で上手に生き抜いていってくれることを望んでいます。

個人が出来る事は小さいことですが、1人ひとりの力を合わせれば、地球への環境負荷を減らすことも出来ます。無関心が一番こわいことです。

孫達が走り回るのを見ながら・・・。爺さんの思いでした。

以上

老健の施設長と事務長の役割

入所されている皆さまが快適に過ごせるよう最善を尽くします

サンシルバー町田

介護老人保健施設

社会福祉法人　共助会

事務長　八色睦代（やいろ・むつよ）

施設長　小路英彦（こうじ・ひでひこ）

――施設長としていつも心がけていることは、どのようなことでしょうか？

小路　入所されている皆さまが、健全で快適に過ごせるように、そして新たに病気にならないように気を付けてあげることが大事なことだと思っています。

感染症の予防対策はしっかり行っています

小路　職員の方は外にいるのでウイルスを持ち込む可能性が大きいと思います。ＰＣＲ検査などでチェックを厳重に行って、入所者様に移さないように心掛けています。

八色　この施設は、面会される家族の方は玄関側の入り口から、入所者の方は施設側の入り口から面会室へ入って頂き、面会室には真ん中に仕切りがあるので、感染防止ができています。それにより、他の施設よりは面会ができていると思います。

――朝、施設に来られると各部屋を回るそうですね。

小路　人数をわけて、お一人お一人と体調の変化とか、食事はちゃんと摂れているか、辛いことはないか、そういうことを中心に聞いています。体調の悪い方は、適宜その場で対処しています。体の機能が弱くなるとメンタル面にも影響する場合があるので、そうならないように身体に合ったプログラムを作り、リハビリを強化したりしてもらっています。

――事務長は、どのようなお仕事をされていますか？

八色　入所者のことは、小路先生にお任せしていますので、私は、そこに携わる職員のフォローですね。なるべく働きやすい環境を作ることが仕事だと思っています。

フレンドリーな職員の笑顔が施設全体を明るくしています

小路　職員の皆さんはフレンドリーで、笑顔で挨拶してくれます。ここの職員のいいところは、一つ笑顔で挨拶、二つ明るい態度、三つ優しいこころ、四つ丁寧な言葉、これが施設のモットーです。

八色　明るい方が多いです。

――日常の仕事の中でどのようなときに喜びを感じますか？

小路　やはり、入所者の人に笑顔で接してもらえると嬉しいですね。やりがいがあるなと感じます。

八色　職員の方が、お話に来られてすっきりしてまた頑張ろうという気になってもらえると嬉しいですね。

上記 QR コードで施設の動画が視聴できます。

■施設見学、随時行っております。お気軽にお問い合わせください。

当施設は、緑豊かな環境に恵まれ、四季小鳥のさえずりが聞こえ、療養には最適の環境にあります。スタッフ一同、きめ細かなケアをモットーに皆さまのご利用をお待ちしております。

〒194-0211
東京都町田市相原町 2373-1
TEL：042-770-2551　FAX：042-770-2531

人間性復活

2023 年 6 月 1 日発行
第 48 巻第 2 号（通刊 185 号）
編集者　星　博信

発行所　一般社団法人 人間性復活運動本部
〒 150-0046 東京都渋谷区松濤 2-15-5-401
tel：03-3460-9441　fax：03-3460-9466
mail：info@ningensei.or.jp
https：//www.ningensei.or.jp/
「人間性復活」は特許庁に商標登録されています。
登録番号：第 4752840（平成 26 年 7 月 29 日再取得）